

教育目標：自立 敬愛 精励
　　ようがの学び舎 舎訓 責任 信頼 誇り



用賀中だより

～生徒が主人公である学校、地域と共に歩む学校～

学校だより 1月号 令和8年 1月吉日
ようがの学び舎 世田谷区立用賀中学校
校長 毛利 慎治

(スマホでも読みやすくなるようレイアウトを試行しています)

自分で決める大切さ

～「学校のきまり検討委員会」を通して育まれる力～

ようがの学び舎 世田谷区立用賀中学校
校長 毛利 慎治

新しい年を迎え、子どもたちにとっても、私たち大人にとっても、「これからどう歩んでいくか」を改めて考える節目の時期となりました。新年は、これまでの自分を振り返ると同時に、新たな目標や在り方を見つめ直す大切な機会でもあります。日々の生活の中では意識しにくいことも、こうした節目だからこそ、立ち止まって考えることができるのではないかでしょうか。

こうした時期に、学校として改めて大切にしたいのが、「自分で考えて、自分で決める」という力です。誰かに言われた通りに行動するのではなく、自分の考えて選び、その結果に責任をもつ。この経験を積み重ねることが、子どもたちの自信となり、前向きに物事に取り組む姿勢を育てていきます。

神戸大学の研究によると、進路や職業などの選択を「自分の意思で決めた」と答えた人ほど、生活に対する満足度や幸福感が高いという結果が示されています。自分で決めたという実感は、達成感や納得感につながり、自己肯定感の土台となります。これは、子ども時代だけでなく、その後の人生においても大きな意味をもつものです。

また、この「自分で決める力」は、テストの点数だけでは測ることのできない力、いわゆる非認知能力とも深く関わっています。自主性や粘り強さ、他者と協力する力、前向きに考える力などは、変化の激しい社会の中で、自分らしく生きていくために欠かせない力です。学校は、こうした力を意識的に育していく場であると考えています。

その一つの取り組みとして、本校では今年度、生徒による「学校のきまり検討委員会」を立ち上げました。これまで当たり前のように守られてきた学校のきまりについて、「なぜこのきまりがあるのか」「今の時代や学校の実態に合っているのか」という

視点で見直し、生徒自身が主体となって考えていくことを目的としています。

今回、この委員会で話し合われたのが、「ブレザーや学ランを着用せず、セーターのみで登下校できるようにしてほしい」という提案でした。春先の気温が上がり始める5月・6月や、冬に向けて少しずつ肌寒くなる10月・11月など、制服の上着を着るには暑く、かといって夏服では寒いと感じる中間の時期に、より快適に登下校したいという生徒の実感から生まれたものです。

生徒たちは、「なぜこれまでその服装が定められてきたのか」「セーターのみで登下校することで、学校生活にどのような影響があるのか」について丁寧に考えました。自由になることで起こり得る課題にも目を向け、色や形、着こなしのマナー、安全面への配慮などについても議論を重ね、具体的な提案としてまとめていきました。

こうした話し合いを経て、本校では令和8年1月より、セーターのみでの登下校を認める運用を開始します。これは、単に服装の選択肢を広げるということだけでなく、生徒が自ら考え、判断し、その結果に責任をもつ経験を積むための一つの機会と捉えています。

また、服装に関する取り組みとして、毎月第1金曜日を「服装を考える日」とし、生徒会を中心となって、その日の活動内容に応じた服装で登下校する日も設けています。例えば、「2時間目に体育があるため体育着で登下校し、授業後に私服へ着替える」など、自分で状況を考え、準備し、行動する場面を意図的につくっています。

これらの実践はすべて、「自分たちの学校生活を自分たちでつくる」という意識を育てる学びの場です。話し合いを通して他者と意見をすり合わせる力や、自分の考えを言葉で伝える力も、日々の活動の中で着実に育まれています。

きまりやルールは、一度決めたら終わりではありません。時代や社会の変化、学校の実態に応じて見直し、よりよいものへと更新していくことが大切です。自由の裏には責任がありますが、その責任ある自由を実体験として学ぶことこそが、学校教育の重要な役割の一つであると考えています。

用賀中学校では今後も、生徒一人ひとりが自ら考え、選び、行動する力を育みながら、保護者・地域の皆様とともに、より良い学校づくりを進めてまいります。

地域と共に歩む学校 特集！

11/2（日）YCC フェスティバル

少々時間が遅りますが紹介出来ていなかったため本号で紹介いたします。第22回を迎えたYCC フェスティバルでも積極的にボランティアが集まり活動しました。

ボランティア活動をすることで、より主体的に行事をよりよくしようという考えが生まれ、振り返りでも次回をより良くしたいという声が多く集まりました。一部を紹介いたします。

○小さい子供がたくさん来るので、常に笑顔で対応することが大切だと気づきました。小さい子供がけがなどしないように、しっかり見守ることも大切なと思いました。

体を動かすコーナーがすごく人気なんだなと気づきました。

次回フェスティバルでも抽選会でたくさん景品がある方がすごく盛り上がると思いました。

○昼間の人の多さで受付の混雑の大変さを知った。

他のコーナーでも YCC の方やボランティアの方が働いていた

フェスティバルでの運動体験もできるので、来年も続けてほしい。

○現金を持っていない人が多かったため、募金ボックスに電子マネーの 二次元コードを貼り付けた方が寄付してくださる方も増えるのではないかと思いました。また、歩き回って寄付金を集めたところ、少しでも募金してくださる方が多かったのでよかったです。

展示コーナーや車椅子コーナーは日常では体験することができないため、とても良いコーナーだと思います。福祉について少し興味をもってくれた人が多かったように感じます。

バスケやテニスの試合や各コーナーも盛り上がりがとても良かったので、ぜひ来年もこの文化を続けて欲しいです。祭り全体的に活気があって楽しかったです。

室内の折り紙やチアの体験コーナーなどはポスターなどを使って宣伝をもう少ししたら良いのではと思いました。



11/15（土）避難所運営訓練

第2回の避難所運営訓練は土曜日に開催し、部活動の生徒が来ている時間で行いました。部活動で「部員」として集まった生徒は組織や指示系統がクラスよりも明確です。顧問から部長・副部長、そこから部員へ、というように、行うことを見確に伝え、動いていく様子に、日常の部活動での積み重ねを強く感じました。

生徒は今回主に次のことを行いました。

- ・物資庫の位置と、格納内容の確認
- ・体育館を避難所とする場合に必要なシートを敷き、たたむ作業
- ・仮設マンホールトイレの設置、格納

6月にあった第1回の訓練では避難所運営委員の皆様のみでこの作業を行ったのですが、生徒が参加した今回、とても素早く設置や格納を行うことができました。わかりやすくご指導くださいった委員の皆様、どうもありがとうございました。

生徒も実際にすることで学びが多くありました。感想を一部紹介いたします。

○マンホールトイレを見るのも触るのも初めてだったけれど経験出来てよかったです

○設置に時間がかかることが分かり、マンホールトイレを組み立てる大変さが味わえてよかったです。体験させて頂いたので震災があった時も積極的に携わりたい。

行うことでさらに当事者意識を高めています。次回 2/15 も生徒の皆さんのが主体的に参加し、避難準備を自分たちで行い、町の助けにもなる、そういう意識を育てていけるととても良いと思います。



11/16(日) 世田谷清掃工場ボランティア

用賀中学校のすぐ近くにあり煙突もよく目立つ世田谷清掃工場ですが、内部設備の刷新のため、今の施設の建て替えが予定されています。そのため、今の姿の世田谷清掃工場でのフェスティバルは今回が最後ということで、用賀中へもボランティア依頼をいただきました。

呼びかけを行ったところ、予想より多くの生徒有志の参加があり、おかげでフェスティバルが目標を1,000人上回る2,500人の来場者を迎える、盛会に終えました。

以下に生徒の振り返りと、清掃工場の方からいただいたお礼を紹介いたします。

○今回、家の近くの清掃工場が閉鎖されるこのイベントは最後になると親から聞いて、ボランティアに参加しました。

世田谷区清掃工場は保育園の頃から小学生の間に何度も訪ねては、はたらく車に乗ったりエコとは何かをみんなで考えるきっかけになったり、自分の成長と一緒に近くにあった場所でした。

今日、お手伝いで小さい子のサポートをした時に、「自分もこんなふうに周りの人たちに見守られてきたんだな」と、温かい気持ちになりました。

自分が育った地域を知ること、学ぶこと、そして今日、小さいことだけれど恩返しをすることができて嬉しいです。



(お礼 清掃工場 武川様)

11月16日(日)の環境フェアでは多大なるご協力をいただきありがとうございました。

当日は中学生にイベントをサポートいただき、盛り上げていただき御礼申し上げます。

今回は、中学生に参加いただき地域との連携という新たな姿を来場の皆様にPRしていただきました。

1時間交代で、お絵描き、はたらく車、総合受付、苗木の配布に従事していただきました。

また、世田谷区と連携のほか、煙突下での記念撮影、チョークでお絵描き、フリーマーケット、用賀中のボランティア、紙芝居などのほか、一組としては、区民との意見交換会、建設部コーナー、国際協力室パネル展示等、初めて実施するコーナーが多くありました。

来場者数も、目標(1500人)を上回る、2500以上に来場いただきました。おかげさまで、皆笑顔で楽しんでおられました。

ありがとうございました。

今後ともよろしくお願ひいたします。

東京二十三区清掃一部事務組合

世田谷清掃工場 管理係 武川 典由



生徒が主人公である学校 特集！

部活動、表彰が本当に多くありました！
(敬称略)

- ①陸上部 個人（鈴木、大場、森脇）
リレー（熊澤、森脇、水野、中村）
第15回世田谷子ども駅伝
男子（鈴木、篠田、大場、千田、川久保）
女子（森脇、水野、熊澤、石井、中村）
- ②男子バレーボール部（区 新人大会）
- ③男子バレーボール部（2ブロック新人大会）
- ④女子バスケットボール部（区 新人大会）
- ⑤区 競書会（田村、阿武、松岡）
- ⑥区 税の標語（小田、小林）
- ⑦都 イラスト賞（山口）
- ⑧サッカー部（区 世田谷カップ優勝）
- ⑨税の作文（高田、作田）
- ⑩女子バレーボール部（ゴールデンカップ）



競書会（書写）



税の標語



陸上部（男子）



イラスト賞



陸上部（女子）



サッカー部



男子バレーボール部



税の作文



女子バレーボール部



女子バスケットボール部